

I. 広東省

1. 省党常務委員会議の開催

●15日午前、胡春華・省党書記主宰の上記会議で、「中国共産党第18期中央委員会七中全会コミュニケ」の精神を伝達・学習し、第19回党大会期間中の安全保障・安定維持、台風「カーン」の防災対策、新農村建設を省全域で推進するための業務について検討・手配し、次のように強調した。政治意識・大局意識・核心意識・看齐意識をしっかりと確立し、思想・政治・行動において習近平同志を核心とする党中央と高度な一致を維持し、当面の各種業務を着実にを行い、良い精神状態で優れた業績を以て、第19回党大会を勝利のうちに迎えようではないか（10月16日付『南方日報』）。

2. 第19回党大会関連

●16日、第19回党大会に出席する広東省代表団が北京市に到着し、このたびの世界の注目を集めている盛大な大会に参加した。代表者たちは次々に、元気いっぱい職務・責任を真剣に遂行し、広く黨員・民衆の声を大会に届け、党大会の精神を広東省に持ち帰ると述べた（10月17日付『南方日報』）。

●17日午前、省代表団が全体会議を開催。胡春華・省党書記が主宰し、70人の代表が全員出席した。代表たちはそろって、胡春華・省党書記を団長、馬興瑞・省長を副団長、任学鋒・広州市党書記を副団長兼秘書長に選出した。会議では習近平・総書記が第18期七中全会で行われた中央政治局の業務報告、その第2回全体会議で述べた重要講話の精神を伝達（10月18日付『南方日報』）。

●18日午後、胡春華・省党書記、馬興瑞・省長、李玉妹・省人代主任、王栄・省政協主席が省代表団分科会の討論に出席（10月19日付『南方日報』）。

●19日午前、引き続き省代表団は、習近平・総書記が行なった報告について討論するとともに、胡春華・省党書記、馬興瑞・省長、任学鋒・広州市党書記、王偉中・深圳市党書記、林少春・常務副省長、施克輝・省紀律検査委員会書記等がそれぞれ、国内外のメディア108社200人余りが集まった記者会見で記者からの質問に答えた（10月20日付『南方日報』）。

●20日、省代表団分科会で第18期中央紀律検査委員会の業務報告と党規約の修正案について討論。胡春華・省党書記、馬興瑞・省長、李玉妹・省人代主任等がそれぞれ発言を行なった。代表たちは同報告と修正案を断固として支持し、全面的に賛成の意を示した（10月21日付『南方日報』）。

●21日午後、党大会の記者会見が行われ、何立峰・国家発展改革委員会主任、張勇・同副主任、寧吉喆・同副主任が国内外の記者からの質問に答えた。雄安新区、北京市副都心、広東・香港・マカオ・ベイエリア建設等、区域発展の問題に答える中で、何主任は次のように述べた。広東・香港・マカオ・ベイエリア建設は実質的な一歩を踏み出しており、すでに区域計画の第1次案が作成され、意見公募を実施しているところである。香港・珠海・マカオ大橋の建設も急いで進めており、本年末に基本的な通行に必要な条件が整えられるよう努力している（10月22日付『南方日報』、『広州日報』等）。

3. 陳雲賢・省政府党組織メンバーが第122回秋期広州交易会を視察

●17日午後、陳雲賢・省政府党組織メンバー兼広州交易会副主任がチームを率いて上記交易会を訪れ、ミデア集団、TCL、奥馬電器、Galanz（家電）、広東宏陶、広東聯塑、広東金源照明、広東中山華芸等の出展を視察し、各企業による産業の転換・高度化、新製品の研究・開発、経営等の状況について理解を深め、各企業が技術の研究・開発を更に強化し、国際競争力を効果的に向上させていくよう激励した（10月18日付『南方日報』）。

4. 第3世代原子炉「華龍1号」のZH-65型蒸気発生器の自主開発・製造に成功

●17日、中国で自主開発・製造された第3世代原子炉「華龍1号」の国内初となるZH-65型蒸気発生器が広州市南沙区から福清原発に向けて船で輸送された。この成功は「メイド・イン・チャイナ」による「原発の肺」が実現し、第3世代の原発設備の自主設計・製造能力がすでに成熟しており、中国の原発設備製造技術・水準も世界のトップレベルに達したことを示している（10月18日付『南方日報』）。

5. 陳雲賢・省政府党組織メンバーがラオス人民革命党中央政治局委員兼ビエンチャン都党書記・知事一行と会談

●20日、上記会談で陳雲賢・省政府党組織メンバー（元副省長）は上記一行の来訪に歓迎の意を表するとともに、広東省の経済・社会の発展状況について簡潔に紹介した。2015年、同省とビエンチャン都は友好省・都関係を結び、双方は経済・貿易、観光、文化、農業等の分野において、広く交流・協力を実施している（10月21日付『南方日報』）。

II. 広州市

1. 市党常務委員会拡大会議の開催

●16日、任学鋒・市党書記主宰の上記会議で、「中国共産党第18期中央委員会七中全会コミュニケ」及び省党常務委員会議の精神を伝達・学習し、業務を手配・貫徹した。また、広州市の安全保障・安定維持、安全な生産、都市交通の安全対策状況に関する報告を聴取し、次の業務を手配（10月17日付『広州日報』）。

2. 2017年第3四半期の市経済動向分析会議の開催

●17日午後、温国輝・市長が上記会議を主宰するとともに講話を行なった。会議では関連部門から第3四半期の経済動向、重点プロジェクト建設、工業への投資、不動産等の状況報告を聴取。黄埔区、南沙区、増城区が経済業務に関する発言を行い、重点業務、問題点、対策・措置について検討（10月18日付『広州日報』）。

3. 増城区が日立オートモティブ・システムズのプロジェクト誘致に成功

●17日午後、日立オートモティブ・システムズと増城区政府が投資協力協定に署名。同区は世界トップ500企業2社（日立、ホンダ技研）の投資による同社の開発・生産拠点の誘致に成功した。同プロジェクトは主に新エネルギー車の駆動電気モーターの開発・製造・販売に力を注いでいく（10月18日、19日付『南方日報』）。

III. 深圳市

1. 人事異動

●17日午後、第6期市人代常務委員会第20回会議が閉幕。陳彪・副市長が定年のため辞職し、劉慶生・市党常務委員が副市長に任命された（10月18日付『深圳特区報』）。

2. 南方科技大学国際諮問・顧問委員会第1回会議の開催

●16日、上記会議が開催され、シンガポール、韓国、米国、香港等、7つの国・地域の世界的に著名な大学の14人の学長が南方科技大学国際諮問・顧問委員会の創始メンバーとなった。このメンバーはオックスフォード大学、チューリッヒ理工大学、北京大学、中国科学技術大学、香港科学技術大学等の学長で構成されている。高自民・副市長が開幕式に出席し、挨拶の中で陳如桂・市長の祝賀メッセージを代読した（10月17日付『深圳特区報』）。

●16日、高自民・副市長が豪キーンズランド大学学長と会談し、南方科技大学と同大学の協力について検討した（10月17日付『深圳特区報』）。

※キーンズランド大学：神経科学、脳科学等、生命科学の分野で多くの先進的な技術を有する世界的に著名な大学。

3. バイドゥAI開発者実践キャンプの開催

●19日、上記実践キャンプが開幕し、テンセント、ファーウェイ、DJIをはじめとする多数の著名な深圳市の企業、AI分野のイノベーション企業、AI技術者等、数百人の開発者が参加。バイドゥは近く「燎原計画」と名づけたAI開発者育成計画を発表し、AIアクセラレーター第1期への参加申し込みを正式に開始すると発表（10月20日付『深圳特区報』）。加速器

4. Sense Time とクアルコムが戦略的提携

●20日、Sense Time（北京市商湯科技開発有限公司）とクアルコムが戦略的協力協定に署名し、モバイル端末とIoT分野の製品、AI（人工知能）とML（機器学習）分野でお計画の協力し、端末産業の高度化を推進していくこととなった。高自民・副市長が署名式に出席（10月21日付『深圳特区報』）。

5. 深圳 - ラオス直行便が就航

●19日、海南航空が運営する深圳 - ルアンパバーン直行便が就航した。数日後には深圳 - ビエンチャン直行便も就航する予定（10月21日付『深圳特区報』）。